



再びつながる

校長 冨田 操

千秀小学校の児童の皆さん。

夏休みが明けました。今年の夏休みもコロナの影響で、いつものように思い切り楽しむ・・・ということがなかなかできないことも多かったのではと心配しています。

そして、みんなも、先生たちさえも思ってもいなかった「分散登校」で学級の半分ずつが登校する、ということになってしまいました。

学級全員で集まることができない、というのはさびしいことです。しかし、必ずまた全員で会う日がやってきます。

その時に、「おー！元気だった？こっちのグループでは、こんなことが起きたよ！こんな面白いことがあったよ！」と、お互いのグループで伝え合うことができるような、そんな毎日を送れると良いですね。

また、こんなコロナの状況で、「心配なことが多くて、少しくたびれるなあ。」と思っている人は、一日ごとに学校へ来る、ということをして、せっかくのチャンスだと思って、少しゆっくりと学校の始まりに取り組んでみてください。休みながら、少しずつ、ゆっくりと。

私たちは、分散登校の間も、離れていても、同じ学級の仲間、同じ学年の仲間、同じ千秀小学校の仲間として、つながっています。

千秀小学校の全員が、再び集まったときに、いつもはなかなか気づかないけれど、みんなで集まることの楽しさや喜びや力強さを、みんなで味わいましょう。

必ず来るその日に、みんなで会えることを楽しみにしててください。先生たちも楽しみにしています。

夏休み、と言えば、今年の夏休みには、パラリンピック・オリンピックがありました。

どちらにも強く心を動かされましたが、「自分とは直接関係のない人たちがやっていて、その人たちの勝ち負けは自分とは関係ないことなのに、なぜこんなにまで心動かされるのだろう？」と不思議に思いました。そして「なぜだろう？」と考えているうちに、それは、どちらとも「競技」を見ているだけでなく、実は競技を通して「人の可能性」を見ているからなのだという事に気づきました。

だからこそ、自分自身の可能性につなげたり置き換えたりすることで、自分のことをその競技者に投影したりすることができ、目の前で繰り広げられていることが自分とは「関係ない」ことではなくなり、自分自身に向かい、心が揺さぶられるのだと思います。その心が揺さぶられるとき、私たちは、ばらばらの個人ではなくなり、つながっているのだと思います。

ディスタンスをとることが最も大切とされる今だからこそ、人と人が「つながる」ことは本当に大切だと思います。「つながること」が手段でなく、「つながること」そのものを目的とすることができるのが学校だと思います。この状況だからこそ、子ども・教職員・保護者・地域がつながる学校を目指していきます。今月もよろしくお願ひします。